

◆英語運用能力について

資料5

	TOEFL(iBT及びComplete Practice Test)	英検	GTEC for STUDENTS
AAA	受験者40名以上かつ上位30名平均72以上	準1級以上30名以上	上位30名の平均が1190以上
AA	受験者40名以上かつ上位30名平均42以上72未満	2級以上30名以上	上位30名の平均が960以上1190未満
A	受験者40名以上かつ上位30名平均42未満	評価せず	評価せず
B	受験者40名以下かつ平均42以上	評価せず	評価せず
C	上記基準に達せず	評価せず	評価せず

学校	独自取組		外部検定試験					TOEFLに係る評価	英語検定	その他	評価
	主な取組	取組詳細	英語検定合格者(受験者)	TOEIC受験者(最高スコア、平均スコア) 公開：990点満点 IP：990点満点 Bridge：180点満点	TOEFL受験者(最高スコア、平均スコア) iBT：120点満点 ITP Level 1：677点満点 ITP Level 2：500点満点 Junior：900点満点 TOEFL iBT Complete Practice Test	TOEFL合計人数(iBT ITP, Junior, Complete Practice Test) (iBT, Complete Practice Test上位30名平均)	その他				
北野	①英語による講演 ②1年間の留学生受け入れにより様々な交流会を実施 ③「学内留学講座」の実施 ④native教員による独自教材の作成と活用	⑤海外でのフィールドワークの実施(シアトル研修、台湾研修)→コロナのため中止 ⑥即興型英語ディベート実践	裏面記載 1級8名 準1級18名 2級11名 (78名)	公開 3名 (最高740、平均667)	iBT 7名(最高110、平均81.3)	7名 (平均81.3)	GTEC 9名 (最高1350、平均1260) IELTS 7名 (最高9、平均6.4)		AA		AA
豊中	①ディベートチーム ②ディベート体験 ③英語リスニング講座 ④ディベートセミナー	⑤大阪大学留学生交流 ⑥国内留学プログラム	裏面記載 準1級8名 2級59名 準2級47名 (130名)						AA		AA
茨木	①ディベートを取り入れた英語授業 ②大阪大学等留学生との交流 ③「イマージョンプログラム」の実施 ④長期留学生の受け入れ ⑤インドネシア学校交流		裏面記載 1級1名 準1級10名 2級15名 準2級1名 (27名)				IELTS 3名 (最高6、平均5.7)				C
大手前	①エンパワーメントプログラム(60名)実施		裏面記載 準1級6名 2級22名 準2級1名				ケンブリッジ英検 1名 IELTS 2名 (最高5.5)				C
四條畷	①授業ではパフォーマンステストを多く取り入れることで、生徒の英語を運用するモチベーションを与えた。		裏面記載 準1級1名 2級6名 準2級1名 (9名)				GTEC Advanced 695名 (最高1229、平均920)			AA	AA
高津	①実用英語技能検定2級の取得を促す ②オンライン交流会をはじめ、台湾サイエンスツアーや東アジア太平洋青年環境フォーラムへの参加者に対する英語でのディスカッション指導		裏面記載 2級6名 (10名)								C
天王寺	①TOEFL Junior の1・2年生全員受験		裏面記載 1級2名 準1級12名 2級12名 (55名)	公開 1名	Junior 684名(最高900、平均774)	684名	ケンブリッジ英検 6名 IELTS 3名 (最高7.5、平均6.3)				C
生野	①2年生全員の英検受験 ②SSH探究Ⅱ成果発表会で英語オールラウンド発表		裏面記載 2級103名 (209名)						AA		AA
三国丘	①SGP事業の実施 ②4技能統合型授業の実施 ③外部試験の受験 ④海外研修の実施	⑤海外の高校生との交流 ⑥英語による課題研究発表	裏面記載 準1級12名 2級26名 (45名)				TOEIC L&R 1名 TEAP 1名		AA		AA
岸和田	①GTECの受験 ②英検 面接指導 ③English Café		裏面記載 準1級5名 2級41名 準2級8名 (82名)				GTEC Advanced 617名 (最高1259、平均882.7)		AA	AA	AA

英語運用能力を育成する取組（参考）

学校	独自取組	
	主な取組	取組概要 および コロナ対策として工夫した取組
北野	<ul style="list-style-type: none"> ①英語による講演 ②1年間の留学生受け入れにより様々な交流会を実施 ③「学内留学講座」の実施 ④native教員による独自教材の作成と活用 ⑤海外でのフィールドワークの実施（シアトル研修、台湾研修）→コロナのため中止 ⑥即典型英語ディベート実践 	<p>ICTやChromebookを活用し、「発信型でアクティブな授業に変える」取組が充実している。民間教育機関を活用した「学内留学講座」を4回、「グローバルリーダー養成英語集中セミナー」を5回実施し、生徒たちは、ネイティブスピーカーの指導のもと、様々なトピックについて英語で思考、判断、表現、討議する機会をもった。以前にSETが作成した教本（5冊）を毎年改定、活用し、4技能を総合的に鍛える授業を行った。即典型英語ディベートも1年生全体で導入し、希望者が関西大会、全国大会へと進んだ。</p> <p>海外でのフィールドワークの実施（シアトル研修、台湾研修、オーストラリア研修）が、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止せざるを得なくなり、その代替として、オーストラリアの高校生とオンラインで、課題研究のSDGsに関するトピックについて、ディスカッションを行った。</p>
豊中	<ul style="list-style-type: none"> ①ディベートチーム ②ディベート体験 ③英語リスニング講座 ④ディベートセミナー ⑤大阪大学留学生交流 ⑥国内留学プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ①1・2年生の希望者を対象に月・木の放課後、即典型ディベートの練習を行った。 ②1年生全員を対象に即典型英語ディベート体験を行った。 ③全学年の希望者を対象に土曜講習の中でリスニングを行った。 ④1・2年生の希望者38名を対象に英語ディベートセミナーを行った。 ⑤1年生全員を対象に大阪大学から19名の留学生とオンラインで交流を行った。 ⑥1・2年生の希望者38名を対象に国内留学プログラムを行った。 <p>英語で交流する企画については、対面で行うことが困難な場合はオンラインで行うよう計画を変更した。</p>
茨木	<ul style="list-style-type: none"> ①ディベートを取り入れた英語授業 ②大阪大学等留学生との交流 ③「イマージョンプログラム」の実施 ④長期留学生の受け入れ ⑤インドネシア学校交流 	<ul style="list-style-type: none"> ①2年「英語表現」の授業にて、「日本は原子力発電所の使用を促進すべきであるか。」「日本は自衛隊の代わりに軍隊を持つべきであるか。」といった社会的なテーマについてディベートを実施。論理的思考力を育成する。 ②大阪大学の留学生とオンラインでディスカッションを行う。1年生全員が参加。 ③冬休み中2日間で実施される英語漬けプログラム。ネイティブスピーカーによって少人数での講義が展開される。最終的に1年生はプレゼンテーション、2年生はディベートを行う。1年生131人、2年生21人が参加。 ④令和4年4月～12月までエストニアからの留学生を受け入れ。令和4年4月～1月までフィンランドからの留学生を受け入れ。 ⑤インドネシアの高校から36名の生徒が来校し、本校生徒と交流をした。高校紹介や、お互いの文化の紹介を英語で行った。1年28人、2年27人が参加。 <p>②大阪大学留学生との交流は、留学生60人を招き、本校生5人程度に対し留学生1～2名という小グループでのディスカッションを行う予定であったが、対面での交流が困難な状況であったため、各教室を留学生とオンラインでつなぎ、ディスカッションを行った。留学生は20名が参加。</p>
大手前	<ul style="list-style-type: none"> ①エンパワーメントプログラム（60名）実施 	<p>CEFR A2相当の独自仕様CEFR-O（大手前）による英語能力の確保。</p> <p>前年度のオンライン研修を踏まえ、より大手前生に対応した難度の研修を精選し実施した。</p>
四條畷	<ul style="list-style-type: none"> ①授業ではパフォーマンステストを多く取り入れることで、生徒の英語を運用するモチベーションを与えた。 	<p>パフォーマンステストにおいては、音読、リテリング、インタビュー、プレゼンテーション、ディスカッションなどを取り入れた。</p>
高津	<ul style="list-style-type: none"> ①実用英語技能検定2級の取得を促す ②オンライン交流会をはじめ、台湾サイエンスツアーや東アジア太平洋青年環境フォーラムへの参加者に対する英語でのディスカッション指導 ③大阪大学SSIおよび日本OECD共同研究主催の『私たちの創る「誰一人取り残さない」未来の社会』に大阪代表として参加するための、英語でのコミュニケーションおよびディスカッション指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①英検第2回において1次試験の準会場として積極的に受験を促した。 ②オンライン交流会、台湾サイエンスツアー、東アジア太平洋青年環境フォーラムで英語でコミュニケーションやディスカッションを行うための事前学習を各数回行った。 ③いくつかのSDGsの目標について、国内や海外の同世代の方々と英語でディスカッションを行うための事前指導を数回行った。具体的には、英語で書かれた論文の精読、SDGsについての取り組みの発表準備、ディスカッションのリハーサル等。 <p>②オンライン交流会において、各デバイスの間隔を適切にとり感染対策を行った。また、台湾サイエンスツアー、東アジア太平洋青年環境フォーラムの英語での事前学習において、マスクの着用や会話での適切な距離などについてその都度生徒への指示を行った。</p>
天王寺	<ul style="list-style-type: none"> ①TOEFL Junior の1・2年生全員受験 	<p>高校入学時に英検2級を取得している生徒が令和元年から増加し、令和4年入学生では1級・準1級・2級保持者が合わせて250名を超えた。英検2級取得後、中学校での英語学習が疎かになっているという趣旨の生徒発言があったため、入学時と、高校での英語学習が進んだ2年生後期にTOEFL Juniorを受験し、そのスコアで本校での学習による英語運用能力の伸長を測ることにした。本年より学年進行の成績比較ができるようになった。</p>
生野	<ul style="list-style-type: none"> ①2年生全員の英検受験 ②SSH探究Ⅱ成果発表会で英語オール発表 	<ul style="list-style-type: none"> ①2年修了時に英検2級取得者6割を目標とする。 ②広く発信するという観点から英語での発表を推奨している。
三国丘	<ul style="list-style-type: none"> ①SGP事業の実施 ②4技能統合型授業の実施 ③外部試験の受験 ④海外研修の実施 ⑤海外の高校生との交流 ⑥英語による課題研究発表 	<ul style="list-style-type: none"> ①米国リーハイ大学での研修に向けた英語での研修を4回実施 ②1、2年生全員に4技能統合型の授業を週2コマ実施 ③学校全体に外部試験を積極的に受験するように指導 ④米国NASAツアー実施、オーストラリア海外研修実施 ⑤台湾fudan高校との国際交流実施 ⑥全国高校生フォーラム（12月：オンライン開催）にSGP2年生の1グループが参加。校内の課題研究発表会。全国水フォーラムに参加。 <p>①米国リーハイ大学への海外研修をオンラインで実施 ②フィリピンへの海外研修を中止し、①に統合</p>
岸和田	<ul style="list-style-type: none"> ①GTECの受験 ②英検 面接指導 ③English Café 	<ul style="list-style-type: none"> ①1、2年生全員がGTEC4技能型を受験 ②英検受験者を対象に個別に面接試験指導を行った。（準1級～準2級） ③ネイティブ講師による話す力強化のための講座。希望者対象に年16回実施。 <p>海外研修が実施できなかったため、歴史街道推進協議会とタイアップし、日本の大学で学んでいる大学生と岸和田城周辺の歴史的建造物を中心にオリエンテーリングをし、それらをまとめて発信するという「日本文化体感プログラム」を実施した。8名の生徒たちが参加し、好評を得た。</p>